

2020/9/30-3

(うとQ世話し「やり過ぎすしかない」)

一つトラブルを終えたと思ったら、またすぐトラブルがやってくる。

毎日毎日トラブルだらけ。

毎日何かしら予期せぬアクシデントが起こる。

それを外国人従業員も自分も、アクシデントとは言わずにトラブルと言っている。

トラブルはもめ事。アクシデントは突発事態。

お互いが通じる語彙が少ないので、本当は後者の意味合いが強いのですが、口をついて出る言葉はお互い最低限分かり合える「あまりいいことではない、起きてほしくない」という意味でトラブルという英単語を使っております。細かい差異はこの際、というかいつも無視して。

それで唐突に思ったのですが、

「幸せになりたい」

という時に、

(単にストレートに幸せになれることはないな。こういったトラブルやアクシデントを乗り越えて)

という言葉が心の中で思ったうえで

「幸せになりたい」

というのが本当なのかもしれないな、と。

抑圧や困難があるからこそ、幸せだという実感がわく。

それもないまま、幸せになったとしたら、幸せだという実感を、あまり感られないだろうし、ないまま口にする「幸せだ」という言葉には、何処か「口にただけ」という不実感が漂うような気が、不図、致しました。

「…」

本当に苦しいと、こういった強がりみたいな屁理屈を産みだし、今の苦しみに無理やり意味を与えて、やり過ぎすしかないのです。